

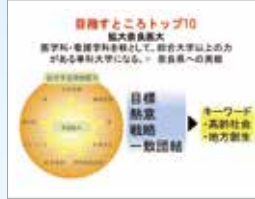
学報

2016. January

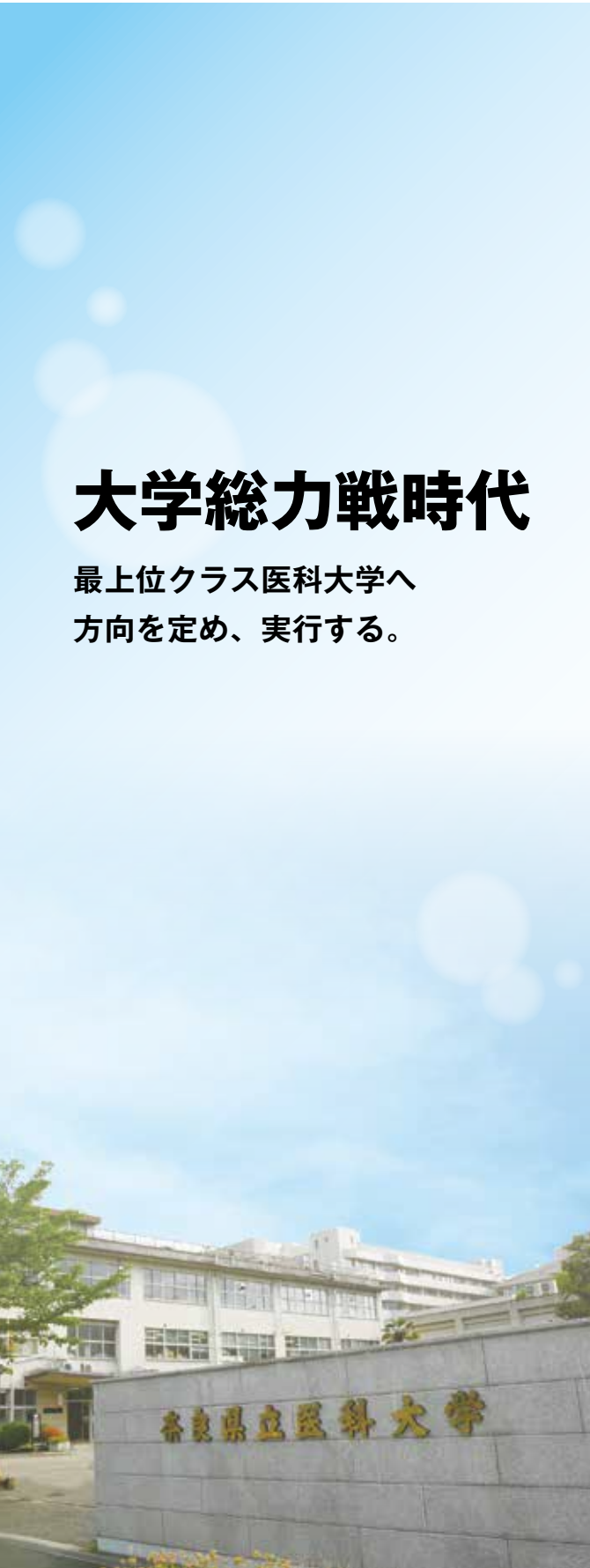
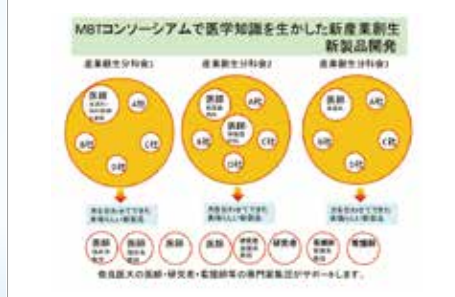
vol. 55

大学総力戦時代

最上位クラス医科大学へ
方向を定め、実行する。



70周年から100周年へ
Qなぜ、今、奈良医大は一致団結する必要があるのでしょか？
A大学運動の時代を乗り切り、100周年に向けて、最上位クラスの医科大学として存続するためです。
⇒このことが、奈良県の医療レベルを最上位クラスにし、奈良への最大の貢献になります。



Contents

特集

仕事始め式	3
研究紹介	4
事務部門紹介	5
クラブ紹介	6
図書館だより	7
産学官連携だより	8
叙勲受章者のお知らせ～心からお祝い申し上げます～	8

Campus News

看護部活性化推進会便り	9
漢方薬シンポジウム2015を開催しました	9
高大連携教育を推進しています	10
平成27年度白檀生祭のご報告	10～11
韓国釜山経商大学校在学生の修学旅行に伴う病院見学	11
医学部医学科で「白衣授与式」を行いました	12
看護研究発表会を開催しました	12
ダヴィンチ導入のお知らせ	12

Winner Report

第54回公衆衛生学会近畿地方会 近畿保健所長会表彰	13
第25回日本病態生理学会で奨励賞を受賞しました	13
20th World Muscle Society Congress 2015でFellowship Awardを受賞しました	13
平成26年度医学科FD活動表彰式を行いました	14
「第10回日本化学療法学会西日本支部支部奨励賞」	
「第17回公益財団法人日本感染症医薬品協会奨励賞」を受賞しました	14
奈良県健康長寿大規模コホート研究助成事業の採択課題が決定しました	14
「第74回日本公衆衛生学会総会」において奨励賞を受賞しました	15
The 66 th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD) 2015においてPresidential Poster of Distinctionを受賞しました	15
第36回奈良県公衆衛生学会で優秀演題賞を受賞しました	15
第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会でポスター賞を受賞しました	15
平成27年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました	16
内科学第二講座木村弘教授が、アジア・オセアニア地区で最も権威のある賞の一つ「Michiyoshi Harasawa Research Award」を受賞しました	16
日本心臓血管麻酔学会・藤田昌雄賞を受賞しました	17
平成27年度(第2回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定	17
第4回医学研究学生フォーラムで最優秀発表賞を受賞しました	17
平成27年度 外部資金獲得状況	18～20

Information

インフォメーション／メディア掲載情報	21
「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	22～23
編集後記・広告	24

※表紙写真…仕事始め式の様子と細井理事長・学長が用いたスライド（詳細はP3参照）

MBT構想と奈良医大の進むべき道

理事長・学長 細井 裕司

明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、奈良医大の進むべき道とそれを達成する戦略について私の所信を述べたいと思います。

1. 奈良医大の進むべき道

現在、全国に80の医科大学・医学部があります。奈良医大はそ中でどのような位置づけの大学になるべきでしょうか。私は「奈良医大をトップ10の医科大学にすること、その中でも存在感があり、世の中から注目される特別な地位にある大学」を目指したいと思っています。文科省は昨年8月に86の国立大学を「世界最高水準の研究」16大学、「特定分野では世界的」15大学、「地域活性化の中核」55大学の3つに分類し発表しました。奈良医大は公立大学ですから文科省に分類されることはありませんでした。しかし、公私立大学においても世間による分類がなされると思います。その分類において、奈良医大は「世界最高水準」を目指します。

奈良医大は奈良県立ですから、奈良県に貢献することは当然です。奈良県への最大の貢献は、優秀な医師や看護師を奈良医大が輩出し、奈良県に定着させることです。また、他府県から奈良医大で学びたいという医師や看護師を多く受け入れられるようにすることです。医師や看護師は、特に優秀な医師や看護師はレベルの高い医療機関に集まります。奈良医大のレベルが低いと残る人材も少なく、他府県から人材も集まりません。企業では月並みなことですが、「生き残りをかけて」トップ10、存在感のある特別な大学を目指さなければなりません。

2. 世の中の状況

1) 大学クラス分けの時代

以前は、少なくとも公式には大学はどこも同じだということになっていました。しかし、2013年6月17日の新聞に「国が迫るクラス分け」「国が初めて選ぶ研究大学20校」などの見だしが出ました。同8月7日には20の研究大学が発表されました。2014年9月26日には別のクラス分けによって37のスーパーグローバル大学が選定されました。次いで、同12月18日には、全国立大を3分類すると発表され、2015年8月には3分類された結果が明らかとなりました。国が打ち出す施策のスピードが大変速いことがわかります。奈良医大はこのスピードについていかなければなりません。

2) 寄附文化の醸成と自助努力

以前は、国立大学は国が、県立大学は県が面倒をみると誰もが思っていました。しかし、政府は2014年度の骨太の方針でも「寄附文化の醸成」を謳い、2015年度においても「ふるさと納税」の制度拡充を掲げています。文科省の統計によると、2012年の国立86大学への寄附の総額は846億円で、単純計算では1大学当たりの1年間の寄附取得額は10億円ということになります。奈良医大においても皆様方からの寄附は重要です。

3. 世の中の変化に負けないための奈良医大の改革

以下の改革を進めて参りました。これからも人材育成に重点をおいて改革して参ります。

- ・ガバナンスの確立(学則の改正、組織改革)
- ・教養教育部門の独立
- ・医看合同教育カリキュラムの構築
- ・大学院の改革
- ・入試改革
- ・教授選考方法の改革
- ・産総研、国循等研究機関との連携
- ・講座研究費の配分方法の確立
- ・在宅看護学領域の設置
- ・大学祭(白檀生祭)の改革(地域との交流)

- ・大学の理念の確立とキャンパス移転準備
- ・臨床英語日本一を目指した英語教育改革
- ・MBT構想の推進(日本のモデルとなる構想)、他

4. MBT (Medicine-Based Town、医学を基礎とするまちづくり)

ー奈良医大をトップ10医学部に、その中でも特別な、存在感のある医科大学にするための戦略ー

他の79の医科大学と差別化するために、私は「医学の力で現在の日本の問題を解決する」ことを考え、MBTを想起しました。この構想を奈良医大で実行することによって、奈良医大は他の医科大学にない大きな分野を持つこととなります。MBTによって解決しようとするのは「少子高齢社会への対応、新産業の創生、地方創生」です。

MBT構想のきっかけの一つは、私が発見しました新しい聴覚経路「軟骨伝導」を補聴器という医療用具だけでなく、スマホやイヤホンなど健常人用一般民生用の機器に応用することによって医学を基礎とする工学・産業(これをMBE、Medicine-Based Engineeringと名付けました)を起こすことを発想したことです。もう一つは、2005年に私が想起し、大和ハウスにお願いして設立された「住居医学」講座(1年間1億円の寄附講座)です。MBTはこの2つが融合してできました。

橿原の地は南阪奈道路によって、関西の主要地域に1時間以内で行くことができる交通の便が極めてよいところとなりました。また、奈良医大の前に近鉄の新駅ができる可能性が非常に高くなっています。この企業にとっても極めて便利な場所で、キャンパス移転が計画され、医学科・看護学科に教授だけでも79名を数える大知能集団があるというMBTに最適の土台があります。

MBT構想については、2014年1月に「MBT、医学を基礎とするまちづくり」というタイトルで本を出版し、同5月には内閣府の地域活性化モデルケースに選定されました。2015年3月にはMBTに関して、奈良県と橿原市、同6月には橿原市と奈良医大が連携協定を締結しました。並行して同3月には橿原市の地域再生計画が内閣総理大臣から認定され、同5月には奈良医大が橿原市から地域再生推進法人に指定されました。このように国、奈良県、橿原市、奈良医大の枠組みを作ることができました。同6月11日にはMBT関連事業に経産省関係の補助金交付が決定し、同9月には総務省からの調査委託事業に全国唯一採択されました。また同11月には内閣府から橿原市へのCCRC関係の交付金が決定しました。これは奈良医大と連携型のCCRCです。

行政の枠組みができましたので、次は民間の力を導入する仕組みを作る必要があります。民間活力の導入の受け皿となる一般社団法人MBTコンソーシアムを今春には立ち上げる予定です。それに先立ち幹事会社(関西電力、凸版印刷、富士通、南都銀行、パシフィックコンサルタンツ、健康都市デザイン研究所)を中心に2015年12月にMBTコンソーシアム研究会を立ち上げ、その設立記念シンポジウムを2016年1月21日に橿原神宮会館で開催しました。

奈良医大発のMBT構想は全国的にも注目され、2015年4月の医学会総会、同10月のITproEXPO2015、同12月の関西健康・医療創生会議設立シンポジウム、2016年2月財界セミナー等で講演する機会を与えられました。その他、経産省等と呼ばれMBT構想を説明しております。

5. 一致団結

昨年来、「未来への飛躍」基金という寄附をお願いしましたところ、奈良医大を思う多くの方々から寄附を頂きました。昨年12月10日までで、1億6,000万円に達しました。これだけ多くの方に奈良医大のことを考えていただいていることに深く感謝申し上げます。

本年も引き続き一致団結で激動の世界を乗り切りたいと思います。よろしくご厚意申し上げます。

研究紹介



中央内視鏡・超音波部(病院教授)
藤井 久男

私は1976年本学卒業後に白鳥常男教授が主宰されていた第1外科(現、消化器・総合外科)に入局し、1979年より大腸グループに所属することになり、以来、約35年にわたり大腸疾患の臨床に携わってきました。あまり知られていませんが、日本における大腸がん検診の草分けは直腸鏡を用いて地域検診を行った弘前大学内科と奈良県立医科大学第1外科です。とくに、白鳥常男教授が1979年より厚生省難治性炎症性腸管障害調査研究班の班長を7年間務められたので、奈良県立医科大学第1外科は炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎とクローン病)診療の拠点の一つとなってきました。私もその下で炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎とクローン病)の臨床研究に従事してきました。厚生省が研究班を組織した当時の炎症性腸疾患患者全国登録数は、潰瘍性大腸炎965人(1975年度)、クローン病128人(1976年度)でした。現在は潰瘍性大腸炎が17万人以上、クローン病が4万人を超えており、潰瘍性大腸炎は指定難病のうち最も多い疾患となっています。私は継続的に厚生労働省研究班に参加して、患者数の増加に対応する行政の取り組み、基礎的研究、臨床的研究の推移をみてきました。当初は基礎では病因探索、臨床においては診断基準の作成が研究の中心でした。私たちも他大学の基礎教室と連携して、手術の摘出組織や糞便を用いて腸内細菌培養やウイルスの検出を試みましたが、当初から腸内細菌叢、免疫異常の関与が注目されておりましたが、治療に結びつく成果が得られませんでした。現在では、ヒトと共生する多

種多様の腸内細菌(腸内細菌叢)がヒトの健康維持に非常に重要で、腸内細菌叢における多様性(diversity)の喪失—dysbiosisが大腸疾患のみならず、代謝性疾患、循環器疾患、さらに精神・神経疾患など種々の疾患の発症に関わっていることが明らかになってきています。これには分子生物学的知見の集積、それを支える技術革新のみならず、インターネットを介する知の共有化がパラダイムを引き起こしています。いまや臨床研究は小さな研究室だけでできることは限られており、資金も限られています。臨床や学内の枠を越えて基礎や学外、さらに産業界との共同研究が必要となっています。厚生労働省研究班においても、症例数の多い欧米に太刀打ちできる研究成果を挙げるにはオールジャパンの多施設共同研究体制が必要と、施設独自の個別研究は退けられ、プロジェクト研究が求められています。

種々の分野で培われた技術や知識、人材、設備はシーズ(seeds; 種)と呼ばれます。種をうまく栽培すれば花を咲かせ、実をつけることができます。種苗メーカーや園芸店で種を買えば、あまり苦勞をしないで花や実をえることができますが、それでは自ら新たな品種を生み出すことは出来ません。新しい研究の原種は日頃の臨床現場にあると思っています。ビタミンCの研究でノーベル生理学・医学賞を受賞したハンガリーのSzent-Györgyは「発見は、誰もが見たことのあるものを見て、誰も考えたことのないことを考えること」と述べています。日頃の臨床において解決すべき問題や疑問—臨床からの要求(needs; ニーズ)が原種です。このニーズとシーズのマッチングが研究を進める上で重要であり、ニーズかシーズ、どちらかが熱意を持って相手を見つけ、歩み寄る努力が不可欠でしょう。

大学での臨床・研究を振り返り、今になって分かったことを後進にお伝えできればと筆を執りました。本学も細井学長・理事長の下に日本のトップ10を目指す研究体制を進めています。新たなキャンパスができる頃には先輩、現役の方々々が耕してきた土壤に立派な果実が実ると信じております。

人事課

人事課は、平成27年4月に新設された課で、昨年度まで総務課に属していた人事係と給与係、新設された障害者雇用推進係を合わせた3つの係で構成されています。

3つの係の主な業務を紹介します。

人事係は、組織定数の見直しと非正規職員を含めた教職員の人事が主な仕事です。人事と一言で言いますが、採用・他部署への人事異動や昇進・退職、また、教授選考等、年中業務に追われています。法人や附属病院がよりよくなるために、どういう組織にし、どういう人材を配置すれば良いか、その体制づくりに頭を悩ませています。

給与係は、教職員の給与支給や福利厚生（健康保険・年金・互助会など）に関する業務等が主な仕事です。本学は非正規職員を含めると2,600人を超える数の職員が働いています。毎月、それぞれに給与が正確に支給されるよう細心の注意を払って仕事をしています。

障害者雇用推進係は、係長、嘱託職員、障害を持った係員で構成されています。係員は病棟でのタオル折りやベッドメイク、点滴支柱・車いす・廊下手すりの清掃、また、薬剤部での薬の説明書折り、病院病理部での検体ブロックの整理等、各所属から様々な依頼を受けて業務を行っています。毎朝、病院の玄関前で元

気に挨拶をしているのも、障害者雇用推進係員です。

人事課の業務は、その成果が数値や金額に表れないため、成果が見えにくいですが、法人とその職員が力を発揮できるよう、日々仕事に取り組んでいます。



人事課の様子

病院管理課

病院管理課は、病院総務係と用度係の2つの係から成り立ち、病院管理という多岐にわたる仕事を所管し、ほぼ病院全ての所属と関わりを持ちながら、病院の円滑な運営に努めています。

病院総務係は、主として医療法関係の申請、各種プロジェクト及び委員会の事務局、医療監視対応、病院全体の旅費の支払い事務などを8名の係員が行っています。

本年度は、土日ERの立ち上げに深く関与し、9月からの試行を経て本格稼働したところです。また、今年度からはE棟のオープンに向け、備品購入、オープニングセレモニー、引っ越し作業などに取り組んでいます。

用度係は、主に病院で使用する医薬品、診療材料、医療用備

品の購入や医療機器の保守・修理、その他、文具や日用品、被服など、病院の診療に係る身の回りの物品等の購入を行っています。

昨年度の購入取扱額は、年間で約164億円にもなり、また、来年度のE棟開設に向け、更に30億円の医療用機器を整備し、ハイブリッド手術室やダ・ヴィンチなど最先端機器を導入する予定です。

また、病院の収支安定と経営の健全化を図るため、8名の係員が、日々、販売業者やメーカーと値引き交渉を行っています。

新専門医制度やヘリポートの運用に向けての調整など新たな課題が山積していますが、奈良県立医科大学が今後益々地域の医療に貢献できるよう課員が一丸となって取り組んでまいります。



病院管理課が管理する物品供給センター



病院管理課の様子

一球入魂

奈良医大卓球部は男子 10 名、女子 6 名の計 16 名で、火、木、土のうち 2 日間を練習日として体育館で日々練習に励んでいます。部員の多くが初心者ですが、先輩が一から優しく丁寧に指導してくれるので、どんどん上達することができます。

最近の大きな出来事として、西日本医科学学生総合体育大会（西医体）の主管を昨年務めました。多くの部員が初めての主管でしたが、少ない人数ながらも部員全員が一致団結し、無事にやりきることができました。昨年は部としても個人としても大きく成長できた一年でした。

卓球部の特徴の一つとして誰でも試合に出られるということがあります。西医体では、個人戦のシングルスとダブルスで全員が試合に出ることができます。また春と秋に行われる近畿圏の医学部を持つ大学が出られる大会では、個人戦はもちろんのこと団体戦も全員が試合に出られるので、実践で試せる場が多く自分の成長を身をもって感じられるのが魅力です。

練習後は食事会を行い、夏休みには合宿があるなどイベントもあり、学年や男女関係なく部員同士の仲もとても良いです。また年に 4 回ほど試合があり、他大学との交流戦もたくさんあるので、他大の同級生はもちろん先輩の方や後輩の人ともたくさん知り合いが出来ます。もし少しでも卓球部に興味がありましたら、ぜひ体育館まで来ていただけたらと思います。部員一同お待ちしております。



卓球部

- 部員 ▶ 16名
- 顧問 ▶ 木村弘(第二内科学教授)
- 主将 ▶ 片岡伸貴(医学科4年)
- 練習日 ▶ 火、木、土

PASSION

奈良医大ダンス部は一年生から六年生までの医学科、一年生から四年生までの看護学科の約 40 名で構成されています。活動は週に一回、水曜日に大講堂の二階で様々なジャンルにわかれて、みんな楽しく練習をしています。ダンス部には、ダンス部に入るまでにダンスをやったことのある部員から、まったくダンスをしたことがなかった部員までおり、初めてであっても、みんなで教えあい、楽しみながらも、しっかりレベルアップできるよう、日々がんばっています。

普段の部活動以外に、文化祭、他の大学との交流をかねたイベント、他の大学の文化祭での発表など様々なところで踊っています。また、新入生歓迎会、追いコン、合宿などダンス部での楽しいイベントもたくさんあります。

ダンスなんてしたことがない…という方でも大歓迎です。気軽に覗きにきてください。



ダンス部

- 部員 ▶ 40名
- 顧問 ▶ 緒方奈保子(眼科学教授)
- 主将 ▶ 金澤怜佳(医学科2年)
- 練習日 ▶ 水

検索マスターへの道 (第6回)

コクランライブラリーを知ろう

ある疑問に対し、医学情報データベースでどのように検索するのかを解説するシリーズ、今回はデータベースを紹介します。

皆さん、コクランライブラリーをご存知ですか？ EBM には欠かせないデータベースの一つなので、よく使っているという方も多いかもしれません。コクランライブラリーとは、コクラン共同計画 (1993 年設立) によるプロダクトで、治療、予防に関する臨床試験を網羅的に収集し、系統的な方法で吟味し、臨床家に現時点の標準的な情報を提供することを目的としています。コクランレビュー (コクラン共同計画が作成するシステマティックレビュー) をメインに、その他 EBM をサポートする各種情報を提供するデータベースです。コクランライブラリーは以下のデータベースを収録しています。

- ・ Cochrane Database of Systematic Reviews (CDSR) : ある医療介入の効果の有無を、世界中から集めた RCT 論文の批判的吟味およびメタアナリシスを経て、統計学的見地から結論づけるレビュー。研究の背景や目的が決まってい進行中の段階のものをプロトコルという。レビューは PubMed にも収録されている。
- ・ Database of Abstracts of Reviews of Effects (DARE) : 学術雑誌等で公表されたシステマティックレビュー。
- ・ Central Register of Controlled Trials (CENTRAL) : RCT 論文、学会抄録等の書誌情報を収録。MEDLINE、Embase の検索とハンドサーチによるデータを収集。
- ・ Cochrane Methodology Register (Methods Studies) : システマティックレビューの方法論レビュー。
- ・ Health Technology Assessment Database (HTA) : 医療技術評価の文献。
- ・ NHS Economic Evaluation Database (NHS EED) : 経済効果、費用分析論文まとめ。

コクランライブラリーは [図書館ホーム > オンラインリソース > EBM 実践支援ツール](#) からアクセスできます。検索例として前立腺がんに関する文献を探してみます。トップページ右上の検索ボックスに「prostate cancer」と入力し検索すると、5600 件ほどの文献が検索できました。検索結果のサイドメニューから、検索されたデータベースの指定もできます。

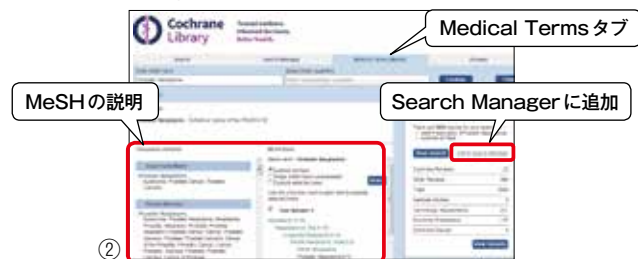
ここで、コクランライブラリーの便利な機能を紹介します。それは、NEAR、NEXT という近接演算子を使えるということです。例えば、今例に出した「prostate cancer」は文献によっては「cancer of the prostate」という表現のこともあります。どちらもヒットさせたいとき、NEAR を使うと、「2 語が入力順序に関わらず近接しているもの (デフォルトは 6 語以内)」という指定ができます。検索式では「prostate NEAR cancer」とします。また、NEXT は「2 語が入力した順番に隣り合っているもの」という指定ができるので、「prostate cancer」、「prostatic cancer」のどちらも含めたいとき「prostat* NEXT cancer」で検索できます。

次に「Search Manager」(①) です。ここでは複雑な検索式を作成、検索式の保存ができます。検索結果上部中央の「Search

Manager」というタブをクリックします。ここで先ほどと同じように「prostate cancer」を検索、また「psa」というキーワードを追加してみます。すると、ナンバーが自動的に付与されるので、あとからこのナンバーでの検索や、検索履歴右の上下矢印マークから検索条件を指定することができます。不要な履歴は左のマイナスマークで消すこともできます。検索式を保存したいときは、下方にある「Strategy name」に検索式の名前を入れ、「Save strategy」で保存できます。ちなみに保存するにはまずコクランライブラリーへの無料の個人登録が必要です。



また、コクランライブラリーでも MeSH を使った検索ができます。画面上部右のタブ「Medical Terms (MeSH)」(②) をクリックします。ここでも「prostate cancer」と入力すると候補語が表示されるので適切なものを選び、「Look Up」をクリックすると対応する MeSH 用語の情報が表示されます。そこから「Add to Search Manager」をクリックすると「Search Manager」の検索履歴に追加されます。



ただし、MeSH を使った検索をするときはいくつか注意が必要です。まず、コクランレビューの索引づけは PubMed に比べて反映が遅いので、PubMed で検索できる文献がコクランレビューでは検索漏れる場合があります。また、MeSH 用語で検索した場合、コクランレビューのプロトコルには MeSH が付与されていないため落ちます。同じく、CENTRAL のデータ中の Embase、ハンドサーチのデータは落ちます。MeSH で検索する場合はこれらに注意してください。

コクランライブラリーと PubMed の使い分けをまとめました。

コクランライブラリー	PubMed
コクランレビューの旧版は参照されない	コクランレビューを検索できる
MeSH の索引づけの反映が遅い	プロトコルは検索できない
CENTRAL では PubMed 未収録の臨床試験データが参照できる	コクランレビューの旧版も含めて検索できる

コクランライブラリーを使うメリットとして、PubMed 以外のデータベースを参照できることが大きいです。システマティックレビューには網羅的な検索が必要とされます。コクランライブラリーを検索することによって、主にヨーロッパの医学薬学情報が豊富な Embase のデータも参照することができます。コクランライブラリーを活用し、より網羅的な検索にチャレンジしましょう。

シーズ集改訂版の発行

産学官連携は、大学において【創造】された研究成果を知的財産として適切に【管理】し、産学官連携活動を通じて社会に【還元】して役立てることであると言えます。

産学官連携活動によって図のような知財サイクルを生み出し更に発展させるため、本学では、平成23年度より毎年シーズ集を発行しており、今年度も改訂版により60人の先生方のシーズを発表しました。シーズ集は、本学に在職する研究者とその研究活動に関する情報を広く社会に紹介し、本学の知的財産を産学官連携活動に有効に活用していくことを目指し作成しています。

シーズは本学のHPに公開される他、冊子版は公的機関や企業の研究開発部門等にも配布します。

大学は自ら事業化が出来ませんので、研究成果を社会に【還元】するためには、企業等との連携が不可欠ですが、大学が何を研究

しているのか知ってもらわないことには始まりません。シーズ集は本学と企業等を結ぶ架け橋の役割を果たしてくれると期待しています。



【図】知財サイクルイメージ

新技術説明会

10月29日(木)にJST東京別館ホールにおいて、本学整形外科学講座 清水隆昌助教がJST主催の新技術説明会で発明:「骨形成促進効果を持つ細胞外マトリックスシートの利用法」について、発表を行いました。新技術説明会は、大学等の研究機関の研究者がシーズ発表を行い、産業界とのマッチングを図るもので、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が産業界に広報活動を行い、シーズに興味を持つ企業が聴講し、発表後に企業との個別面談により連携に向けた協議を行うなど

大学の新しい成果を産業界に紹介するものです。

今後も、本学のシーズを広く発表し、実用化に向けて協力してくれる企業への周知を図ります。



発表中の清水助教

叙勲受章者のお知らせ～心からお祝い申し上げます～

叙勲は、国家又は公共のために功労のあった方を対象に授与されています。

平成27年11月3日に平成27年秋の受章者の発令があり名誉教授の山本浩司氏と元看護師長の西浦眞千代氏が受章されました。心からお祝い申し上げます。

◆ 瑞宝中綬章 山本 浩司 氏(名誉教授)

◆ 瑞宝単光章 西浦 眞千代 氏(元看護師長)

学報編集委員会 からのお知らせ

✎ 寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関する出来事、お知らせ等を掲載いたしておりますが、これらに関連する記事を皆様からも広く募集いたします。ご興味のある方は内線2206までお問い合わせください。なお「学報」は毎年1、4、7、10月に発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



看護部活性化推進会便り

9/9～

看護師長会では、平成24年から看護師長が中心となり、看護部活性化推進会を設立し活動している。

趣旨は、組織を活性化させ看護部の目標を達成するための提案・活動を行うものです。

平成27年度は、1. ナラティブ会の開催 2. 師長に求められるマネージメントスキルを向上させる取り組み 3. DINQL データ活用 4. 機能評価 5. 主任の教育と活用の5Gに分かれて活動しています。

今回は1G ナラティブ会の開催の活動を紹介します。

ナラティブ会は、平成26年度から活動を始め、2年目になります。

メンバーは、NICU・GCU 辻本師長・A5 今別府師長・D 棟中西師長・中央放射線部大川師長・緩和ケアセンター中村師長・C3 西浦師長・オブザーバー西副部長です。

人間関係が希薄になったと感じる近年、臨床現場では、中堅ナースはやりがいを見出せず、新人や若いナースは、忙しい毎日があたりまえと感じ「現場は実習とは違う」と思っているのではないのでしょうか。

実践知の見える化を行うために、「実践して考え」「実践後も考える」ことを通じて自分の大切にしている看護について考えることを目的として「看護を語る会」の開催をしています。

今年度は、スタッフ対象・主任対象・看護師長対象と3回開催を予定し、すでに9月9日にスタッフ対象

の「看護を語る会」を終えました。参加者は31名でした。「普段業務に追われ振り返る時間がないのでこのような機会があった。」「他の病棟の話や大切にしている看護を聞くことで自分の視野を広げていかなければならない、自分の看護観を大切に看護していきたい」という意見がありました。

12月25日には主任対象に開催、1月には師長対象に開催します。

看護の方法が変わりゆく時代の中で、決して変わってはいけない「よりよい看護の実践」は看護を概念化*しリフレクションするために「看護を語る会」を意図的に行うことで実現できると思います。

※看護の概念化とは（坂本了子編集 陣田康子執筆 看護の概念化による人材育成 1部第2章P12）

看護実践とは、患者の回復の促進を目指して行われる専門職が実践するヒューマン・ヘルスケアサービスであり、対人関係構築のもとで行われる社会的実践である。社会的実践であることを可能にする思考のプロセスを看護における実践化と考える。



漢方薬シンポジウム2015を開催しました

10/24

10月24日(土)に奈良県文化会館国際ホールにおいて奈良県と本学の共催により「漢方薬シンポジウム2015」を開催しました。

このシンポジウムは、今回で4回目の開催で、漢方による診療や漢方薬に関するシンポジウムを開催することで広く県民に漢方の普及・啓発を行うことを目的としています。

今回は、「痛みと漢方～生活の中で痛みとどう付き合うか～西洋医学と東洋医学のスクラムで日本の医療を世界最高水準に～」をテーマに、本学附属病院 古家仁病院長から「痛みと漢方」と題した講演をいただき、パネルディスカッションでは本学 大和漢方医学薬学センターの三谷和男特任教授をコーディネーターに、講演いただいた古家病院長に加え、薬剤師の立場から北村薬局の北村翰男薬剤師、栄養士の立場から奈良市立奈良病院栄養室の野坂雄治室長、理学療法士の

立場から社会福祉法人恩賜財団済生会奈良病院リハビリテーション部の柘岡佳樹技師長に参加いただき、具体的な事例のもとにそれぞれの立場から活発な議論をいただきました。

閉会挨拶を行った細井理事長は「今後とも本事業の発展に取り組んでいきたい。」と締められました。

会場には約650人もの多数の参加者があり、漢方への関心の高さを伺うことができました。



古家病院長



シンポジウムの様子

高大連携教育を推進しています

10/27

本学では、高校生への理科に対する興味を高めるため、高校生を対象とした大学での講義、実習の体験的学習を行っています。

今回は10月27日に昨年同様「カメ」をテーマにして、本学の生物学実習室で開催し、畝傍高校の生徒13名が参加しました。当日は、神戸市立須磨海浜水族園でカメの研究をされている三根佳奈子さんによる講義の後、須磨海浜水族園から提供いただいたカメの解剖を、生物学教室教員3名と非常勤講師1名、三根さんの5名の指導のもとで行いました。途中授業の合間の医学科5年生や4年生の学生さんが数名、様子を見に来てくれました。高校生は普段の授業では体験できない実習に熱心に取り組みました。

最初に、須磨水族園の方から現在の日本での外来種と在来種のカメの分布や、外来種のカメの駆除について、いろいろとお話を伺いました。そのお話の中で、捕獲した外来種のカメを「亀楽園」という施設で展示に使用したり、今回のように実習用に使用したりしていると聞き、ただ駆除するのではなく、ちゃんと工夫しておられるのだと思いました。これらのお話は、知らないことばかりで、カメについて少し詳しくなれたように思います。また、ペットを飼う際には、飼い主として責任をもって行動しなければならないと感じました。

カメを解剖するということは、カメを「殺す」ということで、



僕は少し抵抗がありました。しかし、鉋などを使いながら少しずつゆっくりと解剖していく中で、カメの臓器のつながりや働きを知ることができ、また、生命の大切さを改めて実感することができました。大学の研究室の方々にはいろいろ丁寧に教えていただき、とても充実した実習を行うことができました。

(1年男子生徒)

私は、昨年もこの講座に参加させていただいたので、カメの解剖をするのは2回目でした。昨年は初めてのことで、自分の手で生き物を殺すことに抵抗があり、上手くできませんでした。今年も、カメの首を切ることは躊躇いがありましたが、思い切って実行することができたと思います。最初の甲羅を削る作業の時に内臓を傷付けてしまい、甲羅を外して開腹した際には少し残念な結果になりました。それ以外はうまくできたと思います。解剖作業を進め、消化管を丁寧に伸ばしていくと綺麗に1本に繋がりが、感動しました。他にも、解剖している間に心臓が時折動き、まだ生きていたことに驚きました。昨年に引き続き参加させていただき、とても貴重な経験ができたと思います。

(2年女子生徒)



平成27年度白檀生祭のご報告

10/31・11/1

白檀生祭実行委員長 川合 章仁

秋深まる澄み切った青空のもと、10月31日、11月1日に平成27年度奈良県立医科大学白檀生祭を開催させていただきました。今年のテーマは「2015白檀生祭～もっと地元～」です。開学70周年を迎え、人と人のつながり、奈良医大と地域とのつながりをより重視し、そして県内唯一の医科大学である奈良医大でしかできないような大学祭を行いたいと、私達実行委員は本年度のテーマを決定致しました。地域の方々との交流を深めながら、遠方から来られた方にも奈良医大や私たちの地元について知っていただき、楽しんでいただけるような企画を数多く準備できたと思います。

大講堂で行われた講演会では著名な先生方をお招きし地域住民の方、医療関係者の方に向けて素晴らしいお話をいただきました。1日目には、尾木ママの愛称で知られる尾木直樹先生に「尾木ママ流、心に寄り添う教育論」と題し講演をいただき、会場がほぼ満席の状態となる盛り上がりを見せました。筋生理

学者谷本道哉先生は運動処方について、整形外科宮田重樹先生にはロコモティブシンドロームについて講演いただき、地域の方々も多く聞きに来られ、2日目は奄美、平島修医師による、「患者と医師の向き合い方」の講演、松本謙太郎医師、大場雄一郎医師、志水太郎医師による症例検討会を開催させていただきました。

グラウンドでは「元阪神岡田監督による、子どもたち向け熱血野球教室」を行い、地域の様々な学年の子どもたちやその親御様、見学の方で大変な賑わいとなりました。岡田監督にバッティング指導やノック、子どもたちからの質問にも答えていただき、大学祭と地域の子もたち、そして奈良医大野球部で心温まる交流を持つことができましたと感じています。



子どもたち向け熱血野球教室

今年は野外ステージの場所をメインストリートから一望できる場所へと変更し、例年以上の人気と活気となりました。「よしもとお笑いライブ」ではモンスターエンジンが訪れステージ前が人であふれ、熱気に満ち溢れていました。ステージ上での新しい試みとして、県内の中高生を招き医大生とクイズやゲームで対決をするという企画を行い、とても有意義な交流の場にする事ができたと感じています。

例年行われている医学展示企画も今年は更にパワーアップ、奈良医大校内体験ツアーや縫合、採血、エコーなどの本格的なシミュレーション体験を行い、両日とも事前予約が埋まり、医学的側面にも力を入れることができました。

そして、地域とのつながりを最も重視した企画として「なら・かしはらグルメフェア」と「今井町衆市」を開催しました。グルメフェアでは、地元を知ってもらいたい、もっと盛り上げていきたいという想いの下、奈良医大の地元店舗に学祭に出店してもらい、売り切れの店が続出するほどの盛況となりました。今井町衆市では、奈良医大から徒歩圏内にあり古き良き町並みを残す今井町ゆかりの店舗に出店いただき、大学祭の一角が情緒を感じさせる雰囲気となりました。出店いただく過程でも地域の方と密接に関わり合いを持ち、この奈良医大でしか行うことができない大学祭を体験できたのではないかと感じております。

また、本年は白檀生祭イベントと称しまして10月18日にイオンモール橿原にて子ども医療体験というイベントも行い、子どもたちに対して聴診器や血圧、BLSの体験、クイズ大会などを催しました。学生全体に募集し決定

した大学祭マスコットキャラクター「しょうとくた医師くん」も大きく会場を盛り上げ、結果2,000人を超える方にお越しいただき、奈良医大、そして白檀生祭について知っていただく素晴らしい機会となったと感じています。

白檀生祭を行うにあたり、実行委員一同、勉学や実習に忙しい中を何とかやりくりし、話し合いを重ね、考え、時にはぶつかり合いながらも、互いに支え合い、盛大な白檀生祭の実現に向けて努力して参りました。成功に辿り着くまでの道のりは決して平坦なものではありませんでしたが、その分、仲間の大切さや絆、本当に多くのことを実行委員長を務めて学ばせていただきました。今回の運営を通し、医師となる上で重要なチームの連携、物事の組み立て方、今後の人生において大きな糧となる素晴らしい経験をさせていただけたと思っております。

最後になりましたが、平成27年奈良県立医科大学白檀生祭を開催するにあたり、様々な形で協力してくださった同窓会、大学当局及び関係者各位、並びにご指導ご鞭撻くださった諸先生方、アドバイスくださった先輩方にはこの場をお借りして白檀生祭実行委員一同より深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



実行委員

韓国釜山経商大学校在学生の修学旅行に伴う病院見学

11/2

現在、奈良県橿原市では各種インバウンド事業を展開して、橿原市への観光客誘致を展開しているところです。

その一環として、平成27年11月2日に韓国釜山経商大学校の学生59名、教授2名、通訳2名の計63名が本学附属病院を訪問しました。学生は保健医療行政(医療事務)を専攻する学生で、日本を初めて訪れる学生がほとんどでした。到着した学生はスキルスラボ棟3階の研修室1に集合。まず最初に事務担当者から大学及び病院の概要の説明を受けました。続いて(株)ニチイ学館の阿部統括責任者から日本及び本病院の医療事務について説明を受けました。通訳を介してとはいえ、資料は日本語のみだったの

で、どれほど理解いただけたか不安が残るところです。その後、外来を中心に施設見学を行いました。研修を終えた学生は病院をバックに写真を撮り合ったり、短い滞在の思い出づくりにいそしんだ後、帰路につかれました。



ニチイ学館による説明



外来モニターの説明をうける学生たち

医学部医学科で「白衣授与式」を行いました

12/4

平成 27 年 12 月 4 日に、本学大講堂において、医学科 4 年生 110 名の白衣授与式が執り行われました。この授与式は、入学して 4 年間で基本的な医学的知識と技能を得、医療系大学間共用試験 (CBT・OSCE) に合格した 110 人の学生に対し、附属病院等での 72 週間に及ぶ臨床実習に向け、医師を志す者としての自覚を促すため、今年度より開催されました。

まず、細井裕司学長より激励のお言葉をいただきました。その後、代表学生 4 名に対して、学長から全国医学部長病院長会議から認定される「Student Doctor 認定証」が手渡され、続いて学長、医学部長、附属病院長、教養教育部長から、それぞれ白衣が授与された後、学生を代表して、浅井祐志さんが宣誓を行いました。

白衣授与式挙行前には、医学科全学年を対象とした保護者会も開催し、白衣授与式には引き続き、多数の保護者の方にも参列いただきました。厳粛な雰囲気の中にも、保護者の方の見守る温かい雰囲気の白衣授与式となりました。



本学では、2 月末の医学教育分野別認証評価の受審に向け、世界の標準期間とされる 72 週臨床実習を実践します。医療現場での実習成果を期待するとともに、学生が良き医療人として育成されるよう、全学をあげ、取り組んでまいります。

臨床実習が始まって

医学部医学科 新5年 浅井 祐志

毎日の実習の中で、実際に患者様を目の前にし、本当に医師になるのだなと実感する一方、病院で働かれる先輩医師の方々を見て、一人前の医師になる道のりはまだまだ長いと痛感しております。これからもご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いたします。



看護研究発表会を開催しました

12/9

平成 27 年 12 月 9 日 (水)、厳樞会館において平成 27 年度看護学科看護研究発表会を開催しました。会場は、領域ごとに 10 ブースが設けられ、看護学科 4 年生 82 名全員が、作成したポスターの前で 5 分間の発表を行いました。どの領域でも多様なテーマが取り上げられ、多岐にわたる内容は、現代社会における看護の幅広さを示していました。質疑応答では、見学の看護学科 3 年生からも質問があるなど、学会さながら(?)の活気ある発表会となりました。4 年生にとって、看護学生の集大成である看護研究論文を執筆し、その内容をポスターに再編成して大勢の方に伝えるという今回の経験は、卒業後の進

路(就職・進学)にかかわらず、大きな財産となることでしょう。最後に、来賓として林副理事長をはじめ、臨地実習指導者、看護実践キャリアセンター等より 5 名の方がお越しくいただきました。ご多忙にも関わらずご来場いただいたことに心よりお礼を申し上げます。また、ご協力いただきました関係各位に深謝申し上げます。



ダヴィンチ導入のお知らせ

12/20

2015 年 12 月、当院に手術支援ロボット「da Vinci Xi」が導入されました。ロボット支援下前立腺全摘術は 2012 年 4 月より保険適応となり、日本国内において急速に普及しております。ロボット手術の利点として、出血量の減少、3D 画像による鮮明な視野の確保、手ぶれ防止、そして自由度の高い操作性(剥離や縫合が丁寧)などが挙げられます。これらのことから、泌尿器科領域では前立腺のみならず、腎部分切除術や膀胱全摘術などにも適応が検討されております。また、今回導入の da Vinci Xi は最新型であり、旧型の機種と比較して、任意の位置からのアクセス、柔軟なポート位置設置、カメラポートの変更、

高倍率視野の確保が可能になったため、より精度の高い手術の実現が可能とされており、泌尿器科領域のみではなく、他領域での利用も大いに期待されます。da Vinci Xi の利点を生かし、さらに質の高い手術・医療を奈良県民の皆様提供できるようスタッフ一同心掛けてまいります。



第54回公衆衛生学会近畿地方会 近畿保健所長会表彰

健康政策医学講座 教授 今村 知明

公衆衛生学会近畿地方会で「転倒・誤嚥予防を目的とした「誤嚥にナラン！体操」の導入の効果 ～奈良県介護予防ネットワークの関わり～」が近畿保健所長会表彰されました。筆頭演者は畿央大学健康科学部の松本大輔氏で、今村が共同演者で本研究の指導も行っています。

本研究では高齢者の誤嚥による肺炎を従来の口腔ケアだけで予防するのではなく、運動療法を用いての予防も推進し、介入の効果を検証する事で誤嚥性肺炎予防の提案につなげています。

誤嚥予防の研究では、本講座講師の野田龍也が大阪ガスグループ福祉財団より「標準化された機能訓練により誤嚥性肺炎の減少を目指す実践研究」で助成金も獲得

しており、またこの取り組みは「メディファックス」(株式会社じほう)において本年10月に「誤嚥性肺炎予防の独自事業で成果(奈良県)」として掲載されました。



第25回日本病態生理学会で奨励賞を受賞しました

整形外科講座 大学院生 森本 安彦

この度光栄にも第25回日本病態生理学会で「骨芽細胞と神経細胞の共培養実験系における相互作用について」の演題で奨励賞を頂きました。本研究を遂行するにあたり、多大なるご指導とご尽力を賜りました高木名誉教授、浅田先生、研究にご協力いただいた皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

骨形成と神経の関係は解明されつつあるものの、重力や運動などのメカニカルストレスを、骨組織がどのように感知し神経系へと伝達するかなどの骨と神経の相互の情報伝達については未だ明らかでない部分が多くあります。今後も研究に

励み、骨と神経の病態生理の解明につなげていければと思います。



20th World Muscle Society Congress 2015で Fellowship Awardを受賞しました

神経内科学講座 准教授 杉江 和馬

本学神経内科学講座の杉江和馬准教授が、ラグビーW杯2015で日本が南アフリカから劇的勝利を挙げた興奮の冷めやらぬ英国 Brighton で開催された第20回世界筋学会(20th World Muscle Society Congress、2015年9月30日～10月4日)において、研究課題「Characteristic MRI findings of upper limbs muscle involvement in myotonic dystrophy type 1」を発表し、Fellowship Awardを受賞しました。本学会は基礎から臨床にわたる世界最大の筋疾患研究の学術集会で、Fellowship Awardは学術委員の厳正な

選考により授与されるものです。今後さらに神経筋疾患の研究に励み臨床に貢献していく所存です。



平成26年度医学科FD活動表彰式を行いました

平成 27 年 10 月 8 日 (木) 学長室にて、平成 26 年度医学科 FD 活動表彰式が行われました。

昨年度は全 7 回の FD (医学科対象) が開催され、4 回出席された方が最多参加者として表彰されました。

表彰された方は、次の 7 名でした。

高橋幸博先生 (総合周産期母子医療センター)
 吉治仁志先生 (第 3 内科学)
 酒井宏水先生 (化学)
 庄 雅之先生 (消化器・総合外科学)
 須崎康恵先生 (女性研究者支援センター)
 水野文子先生 (微生物感染症学)
 裏山悟司先生 (生物学)



「第10回日本化学療法学会西日本支部支部奨励賞」 「第17回公益財団法人日本感染症医薬品協会奨励賞」を受賞しました

微生物感染症学講座 講師 中野 竜一

この度、平成 27 年 10 月 15 ~ 17 日に奈良市で行われた第 63 回日本化学療法学会西日本支部総会において、「LAMP 法によるカルバペネマーゼ産生アシネトバクター迅速検出法の開発」を発表し、支部奨励賞を受賞しました。この方法は世界中で問題となっている多剤耐性アシネトバクターを容易にかつ迅速に検出できることが特徴で、臨床現場や途上国など多分野で活用されることが期待されます。この研究成果は、Journal of Microbiological Methods に掲載予定です。

また平成 27 年 10 月 20 日に東京で、公益財団法人日本感染症医薬品協会より「カルバペネム耐性腸内細菌科 (CRE) にお

ける薬剤耐性機序の実態解明と耐性獲得機構の解明」の研究テーマに対する奨励賞を受賞しました。多くの著名な先生方が受賞されたこの賞を授かることができたのは、これまでご指導・ご協力頂いた先生方のおかげであり、とても身が引き締まる思いです。今後、より一層研究活動に勤めたいと決意を新たにしているところです。



奈良県健康長寿大規模コホート研究助成事業の採択課題が決定しました

中期計画で取り組むこととされている奈良県健康長寿コホートスタディ (県下全域を対象とした健康長寿を維持させる要因を多面的に研究する疫学調査 (対象:10,000 人)) を推進するため、奈良県内在住者、県内へ通学・通勤する者及び県内医療

機関に通院する者を対象とした、地域に根差した大規模コホート研究の学内公募を行ったところ、7 件の応募がありました。

10 月 7 日 (水) に巖櫃会館 3 階大ホールにおいて審査会を開催し、下記のとおり 3 件の採択が決定しました。

◆助成期間：4 年 (毎年進捗状況の報告を経て継続する)

◆助成金額 (1 件当たり)：8,000 千円/年程度

番号	研究代表者			研究課題名
	講座名	職	氏名	
1	麻酔科学	教授	川口昌彦	手術後機能障害の発生とその関連因子についてのコホート研究
2	地域健康医学	講師	佐伯圭吾	温度・光曝露が健康に及ぼす影響に関する前向きコホート研究
3	内科学第一	教授	斎藤能彦	奈良県における循環器医療の質の向上と循環器病地包括ケア構築に資する実態調査

「第74回日本公衆衛生学会総会」において奨励賞を受賞しました

本学地域健康医学講座の佐伯圭吾講師が平成27年11月4日～6日に長崎県で開催された「第74回日本公衆衛生学会総会」で奨励賞を受賞しました。日本公衆衛生学会は、日本における公衆衛生学の主要学会であり、佐伯講師の受賞した対象研究題目は下記のとおりです。

【受賞対象研究題目】

「居住内寒冷暴露が血圧に及ぼす影響に関する疫学調査
—冬季過剰死亡の抑制に向けて—」

地域健康医学講座 講師 佐伯 圭吾

【受賞者のコメント】

生活環境の温度が健康に及ぼす影響を調査する平城京コホート研究が評価されたことを、大変うれしく思っています。ご指導いただいている車谷典男教授、共同研究者の大林賢史先生はもとより、研究スタッフ、コホート研究参加者の皆様に深謝いたします。今後さらに重要な研究成果を生み出すため、精進していく所存です。

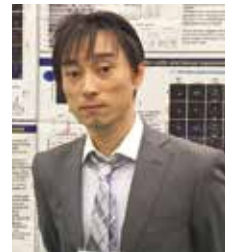


The 66th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD) 2015においてPresidential Poster of Distinctionを受賞しました

第3内科学講座 診療助教 鍛冶 孝祐

第3内科学講座の鍛冶孝祐診療助教による研究「DNMT1 is essential for effective postnatal and regenerative growth of adult liver」が2015年11月13～17日米国San Franciscoで開催された米国肝臓学会2015 (Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver

Diseases) において Presidential Poster of Distinction を受賞しました。本学会は、肝臓学分野における世界的な学術集会であり、Presidential Poster of Distinction は2,000題を超えるポスター発表のうち、上位10%の優秀な業績に与えられるものです。



第36回奈良県公衆衛生学会で優秀演題賞を受賞しました

健康政策医学講座 大学院博士課程 岸本 美和

第36回奈良県公衆衛生学会で発表した演題「花粉症患者における頭痛と黄砂の関係」で、この度優秀賞を受賞しました。花粉症患者は様々な症状を呈しますが、花粉症患者の頭痛症状が黄砂で増悪することを本研究で明らかにしました。研究歴も浅く、まだまだ勉強すべき身ではありますが、研究を通

して少しでも社会貢献できるよう尽力していく所存ですので、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。最後に本研究テーマを与えていただき指導して頂きました健康政策医学講座の皆様、この場をお借りして深く御礼申し上げます。



第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会でポスター賞を受賞しました

皮膚科学講座 学内講師 宮川 史

平成27年11月20日～22日に島根県松江市で開催された第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会において、演題「薬剤性過敏症候群患者の末梢血単核球におけるHHV-6受容体の解析」の口頭発表及びポスター発表を行い、ポスター賞3名のうちの1名に選ばれました。薬剤性過敏症候群(DIHS)は、比較的新しい疾患概念の重症薬疹の1つで、薬物アレルギーとウイルスの再活性化が複合して生じる病態と考えられています。当科の重要な研究テーマの1つで

あり、大学院生とともに私もその研究の一端を担わせていただいています。今回の発表では、ヘルペスウイルス6型(HHV-6)の受容体の発現がDIHS患者のCD4陽性Tリンパ球において上昇していることを報告し、DIHSにおけるHHV-6の再活性化の機序について考察しました。



平成27年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました

平成27年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者に、本学から精神医学の紀本創兵助教、地域医療学の矢田弘史特任助教、放射線医学の西尾福英之助教の3名が決定しました。

奈良県医師会学術奨励賞は、奈良県における若き医学徒の学術を奨励するために、奈良県医師会により贈呈される賞です。

平成27年11月28日に奈良県医師会館で授与式が行われ、受賞された先生方には、賞状及び金一封が贈呈されました。

毎年3月頃に、各所属に応募案内を配布しています。若手研究者の方々の積極的なご応募をお待ちしております。



精神医学 紀本創兵助教



地域医療学 矢田弘史特任助教



放射線医学 西尾福英之助教 (代理: 正田医員)

内科学第二講座木村弘教授が、アジア・オセアニア地区で最も権威のある賞の一つ「Michiyoshi Harasawa Research Award」を受賞しました

2015年12月3日～6日にマレーシア クアラルンプールで開催された、第20回アジア太平洋呼吸器学会 (Asian Pacific Society of Respiriology: APSR) において、毎年、APSRにて1名が選出される「Michiyoshi Harasawa Research Award」が、APSR三嶋理晃会長 (京都大学教授) より木村弘教授に授与されました。この賞は、これまでアジア・オセアニア領域での呼吸器病学の発展と研究に多大なる貢献をされた方に贈られる学会賞であり、APSRの創設者である東京大学名誉教授 故・原澤道美 (はらさわ みちよし) 先生に因んでつけられた賞です。原澤先生は日本の呼吸器病学だけではなく、その当時にはなかった、アジア・オセアニアにおける呼吸器病学の発展、研究の礎を築かれた先生で、世界的な呼吸器病学者です。

【受賞者のコメント】

このたび、図らずも、APSRにおける学会賞である「Michiyoshi Harasawa Research Award」を受賞しました。この賞は、APSRの創設者である故・原澤道美東京大学教授に因んでつけられたものと伺っております。原澤先生のご子

息であられる原澤 寛先生 (現 獨協医科大学内科教授) とは留学時代にフィラデルフィアで同時期に過ごしたこともあり感謝もひとしおです。

クアラルンプールでの12月5日の受賞記念講演は「Crosstalk between sleep apnea syndrome and lifestyle-related diseases」のタイトルで話をさせて頂きました。本年4月に東京国際フォーラムにおいて第55回日本呼吸器学会学術講演会を開催しましたが、その際の会長講演に向けて準備した研究内容のうち、「睡眠時無呼吸と間歇的低酸素」に焦点をあて、睡眠時無呼吸と動脈硬化、血栓症、糖尿病、癌との関連を中心に、その病態と治療の意義、展望について述べて頂きました。

今回このような大変由緒ある賞を受賞できたのも、奈良県立医科大学内科学第二講座で研究に励んでくれた大学院生や教室員のお陰であるとともに、ご指導頂いた学内諸先生方ならびにアドバイスを頂いた国内外の諸先生方のお陰です。素晴らしい教室員の仲間たち、またご協力いただいた患者さん、臨床研究の機会を与えて下さった奈良県立医科大学、そして多くの関係者の皆様に感謝申し上げます。



日本心臓血管麻酔学会・藤田昌雄賞を受賞しました

侵襲制御・生体管理医学 大学院生 川西 秀明

この度は「胸部大動脈手術でのレーザースペックルフローグラフィ（LSFG）による眼底血流値と局所脳酸素飽和度の変化の検討」という発表で、日本心臓血管麻酔学会・藤田昌雄賞を受賞させていただきました。

川口昌彦教授、林浩伸先生へ深く感謝を申し上げますとともに、御指導頂きました先生方、ご協力頂きました皆様方へ深く感謝を申し上げます。

この研究は、主に眼科領域で使用されているLSFGを用いて、選択的脳分離体外循環を併用した胸部大動脈手術中に非侵襲的に眼底血流を測定し、術中の局所脳酸素飽和度と眼循環の経時変化について検討したものです。手術後の脳合併症は患者のQOLに関わる重要な問題です。眼循環より脳血流へア

プローチを試みているので、まだまだ勉強しなければならぬことが多くあります。今後も臨床応用できる様に研究活動を継続していきたいと考えております。



平成27年度(第2回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

平成27年度(第2回)若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の3名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

年3回、各所属に応募要項を案内しますので、積極的なご応募をお待ちしています。

所属	職名	氏名
口腔外科学	助教	柳生貴裕
眼科学	助教	辻中大生
泌尿器科学	講師	青木勝也

第4回医学研究学生フォーラムで最優秀発表賞を受賞しました

医学部医学科4年 藤田 匡秀

この度、平成27年12月19日に徳島大学医学部で行われた第4回医学研究学生フォーラムでの「大血管形態形成におけるHrt転写調節因子の意義」という発表で最優秀発表賞を受賞させていただきました。この研究は、先天性大血管形態異常を生じるモデルマウスを解析し、その病態メカニズムを解明することを目的としたもので、昨年末に「Mechanism of Development」誌に採択されました。

1年次の春休みから約二年半の間、放課後や休日を使って循環器システム医科学教室の中川修前教授のご指導の下で実験を行い、また国立循環器病研究センター分子生理部(現中川修部長:奈良医大連携大学院)で4年次の研究室配属実習を行い、多くの先生方、先輩方にご指導をいただき、実験を続けることができました。

基礎医学分野での研究活動で培った想像力や論理的思考力を、今後の臨床での活動に活かしていきたいと考えております。



平成27年度 外部資金獲得状況

106件 257,367,366円 (間接経費を含む) (平成27年11月30日現在) ※文部科学省科学研究費助成事業を除く

(1) 平成27年度厚生労働科学研究費補助金

① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
食品の安全確保推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	行政機関や食品企業における食品防御の具体的な対策に関する研究
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	健康政策医学	教授	今村 知明	医療情報の活用のための疾病及び関連保健問題の国際統計分類のあり方に関する研究
地域医療基盤開発推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	病床機能の分化・連携や病床の効果的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究
地域医療基盤開発推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	標準的な院内清掃のあり方の研究

② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	2,500人の糖尿病患者集団の10年予後からみた治療戦略に対する検討	熊本大学 小川 久雄
障害者対策総合研究事業 (障害者政策総合研究事業 (身体・知的等障害分野))	健康政策医学	講師	野田 龍也	難病のある人の福祉サービス活用による就労支援についての研究	国立障害者リハビリ テーションセンター 深津 玲子
食品の安全確保推進研究事業	健康政策医学	准教授	赤羽 学	行政機関や食品企業における食品防御の具体的な対策に関する研究	奈良県立医科大学 今村 知明
食品の安全確保推進研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	バイオテクノロジーを用いて得られた食品のリスク管理及び国民受容に関する研究	国立医薬品食品衛生研究所 五十君 静信
食品の安全確保推進研究事業 (カネミ油症に関する研究)	健康政策医学	准教授	赤羽 学	食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究	九州大学 古江 増隆
新興・再興感染症及び 予防接種政策推進研究事業	感染症センター	准教授	笠原 敬	成人の重症肺炎サーベイランス構築に関する研究	国立感染症研究所 大石 和徳
政策科学総合研究事業 (統計情報総合研究事業)	健康政策医学	講師	野田 龍也	患者調査に基づく受療状況の解析と総患者数の推計に関する研究	藤田保健衛生大学 橋本 修二
地域医療基盤開発推進研究事業	健康政策医学	講師	野田 龍也	病床機能の分化・連携や病床の効果的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究	奈良県立医科大学 今村 知明
地域医療基盤開発推進研究事業	健康政策医学	講師	野田 龍也	標準的な院内清掃のあり方の研究	奈良県立医科大学 今村 知明
地域医療基盤開発推進研究事業	健康政策医学	講師	野田 龍也	救急医療体制の推進に関する研究	一般財団法人 救急振興財団 山本 保博
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	神経内科学	准教授	杉江 和馬	希少難治性筋疾患に関する調査研究	東北大学 青木 正志
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	NICU	教授	高橋 幸博	新生児・小児における特発性血栓症の診断、予防および治療法の確立に関する研究	山口大学 大賀 正一
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	小児科学	教授	嶋 緑倫	新生児・小児における特発性血栓症の診断、予防および治療法の確立に関する研究	山口大学 大賀 正一
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	慢性活動性 EB ウイルス感染症とその類縁疾患の診療ガイドライン作成と患者レジストリの構築	名古屋大学 木村 宏
難治性疾患等克服研究事業 (難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業))	神経内科学	教授	上野 聡	スモンに関する調査研究	国立病院機構鈴鹿病院 小長谷 正明
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	杏林大学 塩原 哲夫
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	形成外科	准教授	桑原 理充	肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究	国立成育医療研究センター 新関 寛徳
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	輸血部	教授	松本 雅則	非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) の全国調査研究	東京大学医学部附属病院 南学 正臣
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	輸血部	教授	松本 雅則	血液凝固異常症等に関する研究	慶應義塾大学 村田 満
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	整形外科	教授	田中 康仁	早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究	千葉大学 横手 幸太郎
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	第一内科学	教授	斎藤 能彦	特発性心筋症に関する調査研究	北海道大学 筒井 裕之
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	第二内科学	教授	木村 弘	呼吸不全に関する調査研究	千葉大学 巽 浩一郎
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	救急医学	教授	奥地 一夫	脳卒中急性期医療の地域格差の可視化と縮小に関する研究	九州大学 飯原 弘二
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	皮膚科学	講師	小豆澤宏明	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	杏林大学 塩原 哲夫
厚生労働科学特別研究事業	健康政策医学	講師	野田 龍也	特定保険医療材料の保険償還価格算定の基準 (原価計算方式) における営業利益率の調整率の定量的算出法に係る研究	大阪大学 田倉 智之
地域医療基盤開発推進研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	臨床効果データベースの連携及び効率性のための研究	東京大学医学部附属病院 大江 和彦
厚生労働科学特別研究事業	健康政策医学	講師	野田 龍也	ドクターヘリの適正な配置及び安全基準のあり方に係る研究	東海大学 猪口 貞樹

(2) 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	主任研究者名等
循環器病研究開発費	第一内科学	教授	斎藤 能彦	糖尿病患者における心血管疾患予防の最適化に関する研究	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 小川 久雄
循環器病研究開発費	第一内科学	教授	斎藤 能彦	本邦における HFpEF の実態に関する多施設共同調査研究	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 安齊 俊久
循環器病研究開発費	精神医学	准教授	安野 史彦	心血管リスクに伴う認知症発症機序の解明とその解決	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 猪原 匡史
循環器病研究開発費	第一内科学	教授	斎藤 能彦	循環器疾患診療実態調査 (JROAD) における JROAD-DPC と臨床データの Validation に関する研究	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 小川 久雄

(3) 総務省

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE)	産婦人科学	教授	小林 浩	循環器疾患患者を対象とした在宅ヘルスケア・システムの研究開発
G空間情報を活用したLアラート高度化事業	産学官連携推進センター	研究教授	梅田 智広	奈良県における住民及び旅行者を対象としたLアラート情報伝達事業に関する実証事業

(4) 経済産業省

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
戦略的基盤技術高度化支援事業	整形外科兼スポーツ医学講座 (寄附講座)	学内講師	小川 宗宏	膝回旋不安定性の非侵襲的かつ簡便な定量化技術の開発
戦略的基盤技術高度化支援事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	日本発世界初の次世代マイクロニードルワクチンの量産技術の確立
中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業	分子病理学	教授	國安 弘基	磁気発熱体の抗腫瘍効果の評価

(5) 文部科学省

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
地域産学官連携科学技術振興事業費補助金<イノベーションシステム整備事業>地域イノベーション戦略支援プログラム (国際競争力強化地域)「けいはんな学研都市ヘルスケア開発地域」	産学官連携推進センター	特任助手	刀根 庸浩	疾病予防を目指した概日リズム改善装置の開発

(6) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
医療分野研究成果展開事業研究成果最速展開支援プログラム産学共同促進ステップハイリスク挑戦タイプ	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	特任講師	和田 佳郎	耳石器 (重力センサ) が原因のめまいを診断する平衡機能検査装置の開発
医工連携事業化推進事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	学内講師	西村 忠己	新構造の振動子を用いた世界初の軟骨伝導による補聴器の開発
橋渡し研究支援推進プログラム新規研究シース A	健康政策医学	准教授	赤羽 学	免疫抑制剤を用いない同種細胞シート移植による骨形成促進の研究
橋渡し研究支援推進プログラム新規研究シース A	麻酔科学	学内講師	林 浩伸	胸部大動脈手術に対応するレーザースペック法に基づく眼底血流測定装置の開発
医療技術実用化研究事業 (臨床研究・治験推進研究事業)	化学	教授	酒井 宏水	備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究
医薬品等規制調和・評価研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	科学的根拠に基づく輸血ガイドラインの策定等に関する研究
革新的がん医療実用化研究事業	放射線医学	博士研究員	穴井 洋	最新の IVR による症状緩和についての研究
感染症実用化研究事業 エイズ対策実用化研究事業	小児科学	教授	嶋 緑倫	血友病とその治療に伴う種々の合併症克服に関する研究
感染症実用化研究事業 エイズ対策実用化研究事業	健康管理センター	准教授	古西 満	ART 早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究
再生医療実用化研究事業	整形外科	教授	田中 康仁	関節鏡視下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復・多施設共同、非盲検、ランダム化、並行比較試験
早期探索的・国際水準臨床研究事業	泌尿器科学	教授	藤本 清秀	標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発
早期探索的・国際水準臨床研究事業	泌尿器科学	博士研究員	平尾 佳彦	標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発
創薬基盤推進研究事業	分子病理学	教授	國安 弘基	Claudin を標的とした創薬基盤技術の開発
長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業	精神医学	教授	岸本 年史	精神疾患患者に対する早期介入とその体制の確立のための研究
長寿・障害総合研究事業 認知症研究開発事業	精神医学	准教授	安野 史彦	BPSD の症状評価法および治療法の開発と脳内基盤解明を目指した総合的研究
難治性疾患実用化研究事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	難治性めまい疾患の診療の質を高める研究
難治性疾患実用化研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録観察研究
長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業	看護学 人間発達学	教授	飯田 順三	発達障害を含む児童・思春期精神疾患の薬物治療ガイドライン作成
難治性疾患実用化研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	遺伝性心血管疾患における集中的な遺伝子解析及び原因究明に関する研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	日本人糖尿病の合併症重症度評価パネルの確立と重症化予防の為に効果的医療連携体制の構築
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	眼科学	教授	緒方奈保子	日本人糖尿病の合併症重症度評価パネルの確立と重症化予防の為に効果的医療連携体制の構築
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	糖尿病学講座	教授	石井 均	日本人糖尿病の合併症重症度評価パネルの確立と重症化予防の為に効果的医療連携体制の構築
難治性疾患実用化研究事業	皮膚科学	講師	小豆澤宏明	重症薬疹における特異的細胞死誘導受容体をターゲットにした新規治療薬開発
医薬品等規制調和・評価研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発
創薬基盤推進研究事業	第二生理学	教授	堀江 恭二	創薬・疾患研究のための細胞・組織コレクション供給体制確立に関する研究
地域横断的な医療介護情報の ICT 化により、世界最先端の臨床研究基盤等の構築を加速するための研究事業	健康政策医学	教授	今村 知明	地域横断的な医療介護情報の ICT 化により、世界最先端の臨床研究基盤等の構築を加速するための研究
地域横断的な医療介護情報の ICT 化により、世界最先端の臨床研究基盤等の構築を加速するための研究事業	健康政策医学	講師	野田 龍也	地域横断的な医療介護情報の ICT 化により、世界最先端の臨床研究基盤等の構築を加速するための研究
女性の健康の包括的支援実用化研究事業 (O2)	産婦人科学	教授	小林 浩	子宮内膜症の病態解明、および予防・治療法の開発
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	脳卒中を含む循環器病の診療情報の収集のためのシステムの開発に関する研究

Winner Report

循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	脳卒中を含む循環器病対策の評価指標の開発に関する研究
感染症研究国際展開戦略プログラム	微生物感染症学	教授	矢野 寿一	フィリピン感染症研究拠点における国際共同研究の推進

(7) 公益社団法人 日本医師会 治験促進センター

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
臨床研究・治験推進研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	治験の実施に関する研究 [エブレノン]
臨床研究・治験推進研究事業	小児科学	助教	榎原 崇文	治験の実施に関する研究 [5ALA・SFC]

(8) 独立行政法人 科学技術振興機構

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム A-STEP	地域健康医学	講師	佐伯 圭吾	体位センサーを搭載したアクチグラフ睡眠計・自由行動下血圧計の開発

(9) 奈良県

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
高付加価値獲得支援補助金	スポーツ医学 講座	教授 (寄附講座)	熊井 司	モバイル型振動発生機の実用化実験

(10) 奈良県 明日香村

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
地域医療連携事業	地域健康医学	教授	車谷 典男	あすか健康プロジェクト 48
地域医療連携事業	精神看護学	教授	軸丸 清子	あすか健康プロジェクト 48

(11) 三重県 名張市

研究事業名	所属	職名	研究担当者	研究課題名
伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査

(12) その他 公益法人等

団体名等	所属	職名	氏名	研究課題名
(公財) 小野医学研究財団	脳神経システム 医科学	教授	坪井 昭夫	嗅覚系を用いた脂質代謝異常の治療法開発に関する基礎研究
(公財) 万有生命科学振興国際 交流財団 (1年目)	免疫学	博士研究員	今北菜津子	エビジェネティクスによるインフルエンザウイルス脳症への新たな治療戦略
(公財) 磁気健康科学研究振興 財団	健康政策医学	准教授	赤羽 学	MR装置の静磁場を夜間利用した再生医療に有用な骨形成促進技術の開発
(公財) 大阪ガスグループ福祉 財団	健康政策医学	講師	野田 龍也	標準化された機能訓練により誤嚥性肺炎の減少を目指す実践研究
(公財) 喫煙科学研究財団 (4年目)	脳神経システム 医科学	教授	坪井 昭夫	喫煙時の匂いにより快・不快感を誘起する脳内神経回路の解明
(公財) 喫煙科学研究財団	免疫学	教授	伊藤 利洋	炎症性腸疾患動物実験モデルでの腸内細菌のメタゲノムならびに免疫学的解析とニコチン・喫煙による変化の検討
(公財) 日本応用酵素協会	脳神経システム 医科学	教授	坪井 昭夫	神経樹状突起のスパイン形成におけるユビキチン制御
ノバルティスファーマ (株)	眼科学	教授	緒方奈保子	高齢者の QOL に及ぼす視機能の影響
ノバルティスファーマ (株)	第三内科	助教	北出 光輝	NOTCH1 阻害による効率的な肝再生の可能性
ノバルティスファーマ (株)	皮膚科学	学内講師	宮川 史	SLE において自己抗体の産生と臓器障害を各々制御する転写因子群の同定
ノバルティスファーマ (株)	泌尿器科学	助教	三宅 牧人	腎細胞癌に対する新規治療の開発を目指した膜貫通型および可溶性 Klotho の機能解析
(公財) 三島海雲記念財団	脳神経システム 医科学	助教	高橋 弘雄	嗅覚による油の感知メカニズムの解明と脂質異常症の治療への応用
(一財) リディアオリリー記念 ヒアス皮膚科学振興財団	皮膚科学	学内講師	宮川 史	SLE モデルマウスにおいて自己抗体の産生と臓器障害を各々制御する転写因子群の同定
バクスター株式会社 (バクスター株式会社)	血友病治療・ 病態解析講座	助教 (寄附講座)	松本 智子	中等症・軽症血友病 A 患者における包括的凝固機能解析とインヒビター発生メカニズムに関する基礎的研究
(公財) 大阪難病研究財団	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科学	医員	伊藤 妙子	高齢者めまいに対するリハビリ治療に関する基礎研究
(公財) 武田科学振興財団	総合周産期 母子医療センター	助教	吉元 千陽	近赤外線を用いた鉄測定により子宮内膜症の悪性化を早期に予測する新規検査法の確立
アストラゼネカ株式会社	泌尿器科学	教授	藤本 清秀	下部尿路症状を有する前立腺癌患者に対する治療
(公財) 日本感染症医薬品協会	微生物感染症学	講師	中野 竜一	カルバペネム耐性腸内細菌科 (CRE) における薬剤耐性機序の実態解明と耐性獲得機構の解明
(公財) 武田科学振興財団	脳神経システム 医科学	助教	高橋 弘雄	脳梗塞モデルマウスを用いた神経回路修復機構の解明と治療への応用
(公財) 三井生命厚生財団	消化器・ 総合外科学	学内講師	野見 武男	Nonalcoholic fatty liver disease (NAFLD) 肝癌に対する術前短期ダイエット治療効果に関する他施設共同研究
(公財) 武田科学振興財団	精神医学	助教	紀本 創兵	社会的経験の剥奪により障害される前頭野機能の分子基盤の解明
(公財) 万有生命科学振興国際 交流財団 (1年目)	脳神経システム 医科学	助教	高橋 弘雄	脳梗塞後の神経回路再編メカニズムの解明と治療への応用
認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク (2年目)	消化器・ 総合外科学	講師	山田 高嗣	iPS 腸管 (iGut) を用いた膵臓 (iPanc) の臓器分化誘導法の開発
一般社団法人 日本血栓止血学会	輸血部	教授	松本 雅則	循環器疾患に伴う後天性 von Willebrand 症候群の診断体制の確立
(公財) 鈴木謙三記念医学応用 研究財団	整形外科	助教	稲垣 有佐	ナノコーティング技術を応用した人工靭帯の骨親和性向上の研究
(公財) テルモ生命科学芸術財団 (旧: テルモ科学技術振興財団)	脳神経システム 医科学	講師	吉原 誠一	脳梗塞モデルマウスを用いた神経回路修復による治療法の開発
(公財) 内視鏡医学研究振興財団	消化器・ 総合外科学	学内講師	野見 武男	肝内胆管癌に対する、術前審査腹腔鏡を用いた ICG 蛍光法による至適リンパ節郭清法の開発

Information

泌尿器科疾患市民公開講座

開催日：2月28日(日) 14:00～16:00(開場 13:30)
 場所：奈良県経済倶楽部 5階会議室
 概要：トイレのことを気にしない、いきいきとした毎日の生活を送るための知識と医療の現状を紹介。
 講演者：平山 暁秀氏(近畿大学医学部奈良病院)
 田中 宣道氏(奈良医大泌尿器科) 他
 対象：県民
 定員：100名
 申込等：無料・事前申込み必要
 問合せ先：キッセイ薬品工業(株) TEL.0742-30-0205

病気とうまく付き合うために～知って得する緩和ケア～

開催日：2月28日(日) 13:30～15:30(開場 13:00)
 場所：奈良県産業会館 5階大会議室
 概要：緩和ケアの普及啓発
 講演者：神野 正敏氏(奈良医大腫瘍センター) 他
 対象：県民・医療関係者
 定員：200名
 申込等：無料・事前申込み不要
 問合せ先：病院管理課(内線3279)

第7回人を対象とする医学系研究講習会

開催日：2月12日(金)
 場所：大講堂
 概要：本年4月から施行されている「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の研究に関して、一般的に遵守すべき各種規制に加えて、研究活動における不正行為や、研究活動に係る利益相反等についての教育を目的とした講習会です。臨床研究を実施する方、臨床研究を支援する方、倫理審査委員会委員の方を対象としており、外部の方にも参加していただけます。
 講演者：笠原 正登氏(臨床研究センター) 他
 対象：研究に携わる者(全職員) 他大学、他病院職員も受講可500名
 問合せ先：病院管理課 池本(内線3216)
 備考：研究に携わる者は、事前に本講習会を受講してください。講習会は年6～7回開催されます。少なくとも1年に1回の受講が義務づけられています。

女性のための健康講座

開催日：3月12日(土) 14:00～16:00(開場 13:15)
 場所：学園前ホール
 概要：女性の健康ケアで活力アップ
 講演1 女性の健康と喫煙
 一夫の喫煙で妻の乳がんリスクが2倍に—
 講演2 遺伝性のがんを考える
 講演者：山下 健氏(大和郡山病院産婦人科)
 小林 浩氏(奈良医大産婦人科)
 対象：県民
 定員：約300名
 申込等：無料
 問合せ先：奈良県産婦人科医会公開講座係
 TEL.0744-22-8502 FAX.0744-23-7796

第17回『呼吸の日』記念市民公開講座

開催日：5月8日(日)
 場所：なら100年会館 中ホール
 概要：『肺炎にかからないために』
 一抗菌薬にたよらず肺炎と向き合う—
 講演者：伊藤 利洋氏(奈良医大免疫学講座)
 矢野 寿一氏(奈良医大微生物感染症学講座) 他
 対象：県民
 定員：400名
 申込等：無料・事前申込み不要
 問合せ先：奈良医大感染症センター(内線3525)

ボランティア募集します!!

認知症の方とご家族が参加されるカフェの運営を手伝っていただける方を募集します。
 対象：どなたでも
 日時：平成28年4月開設 月1回 土曜日午後2時～午後4時
 内容：・認知症の方とご家族との交流
 ・簡単な喫茶業務
 場所：奈良県立医科大学附属病院 精神科外来内
 問合せ先：奈良県立医科大学附属病院 認知症疾患医療センター
 TEL.0744-22-3132

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
今村 知明 教授 (健康政策医学)	メディアファックス(株式会社じほう)2015年9月15日(火) 15年度実施の7調査、調査概要案を了承(介護報酬改定検証委員会)	今村は厚生労働省老健局老人保健課 社会保障審議会専門委員を務め、調査検討組織の委員長が務めている。
	毎日新聞 2015年9月23日(水)朝刊 26ページ(奈良) 地方版 地域フォーラム：健康づくり議論 首長ら取り組み紹介 奈良新聞 2015年9月23日(水)朝刊 1ページ(第1社会) 健康・医療・介護を考察 知事、首長ら参加し地域フォーラム各地の取り組み報告 奈良テレビ 2015年9月22日 県政フラッシュ 「第1回地域フォーラム」	奈良県庁主催で奈良県内の首長や有識者が地域の課題について話し合う「地域フォーラム」が9月22日、御所市の市アザレアホールと三郷町文化センターで開催され、「健康・医療・介護」をテーマに住民の健康づくりや高齢者のケアについて議論し、今村が講演を行い、知事とともにパネリストに加わった。
	メディアファックス(株式会社じほう) 2015年10月8日(木) 誤嚥性肺炎予防の独自事業で成果(奈良県)	今村先生が委員長を務めている、奈良県健康長寿共同事業実行委員会有識者会議では高齢者の口腔ケアの推進とオリジナルの誤嚥予防体操の普及運動を進めている
	TBSテレビ「白熱ライブ ビビット」 2015年10月22日(木) 「京橋千足屋、提供の水に高濃度塩素」塩素の人体への影響等解説	「京橋千足屋」で女性客5人が体調不良、提供の水に高濃度塩素が検出された事件で、食品防御の専門家として電話インタビューでコメントした。
岡本 左和子 学内講師 (健康政策医学)	日本経済新聞 朝刊(全国版) 「日曜に考える」の医療面にコラム 寄り添う支える4回連載 3回目 2015年8月23日(日)第二の診断、医師からの推奨を 4回目 2015年8月30日(日)ショックな事実受け入れに時間	岡本は医療コミュニケーション学を専門とし、医療従事者と患者の関係とコミュニケーションの実践に関する研究を行っている。それに基づいて、患者の視点についての医療コラムを4回連載で担当した。
	奈良テレビ 2015年9月11日(金) 県政フラッシュ 「がん患者サロン よしの」	患者が医師に「話しづらい」と思うのが常だが、それを克服して治療に前向きに関わっていくパートナーシップ構築を考えるためのコミュニケーション講義をした。
	毎日新聞 2014年10月7日(水)東京夕刊 2ページ 見出し：特集ワイド：ノーマア「ドクハラ」! ◇医師 正しい情報と寄り添う気持ち示し、信頼関係築く努力を ◇患者 病気と向き合う準備不足なら「時間がほしい」と伝える	タイトルがドキッとすると、医師と患者の上手な関わり方が、患者の治療への前向きな姿勢と治療結果に影響する。専門家として電話インタビューを受け、患者にも希望する姿勢について述べた。
熊井 司 教授 (スポーツ医学講座)	NHK「ためしてガッテン」 9月30日(水)	テーマ「足裏チェック! 疲れと痛みの真犯人はカカトだ」において、スポーツ整形外科の専門家としてスタジオで踵部痛の最新の病態を解説し、ゲストに対しそのチェックと予防法の実践を行った。また、実際の手術例や術後の患者さんのインタビューを交え、足底腱膜炎とモートン病についての解説も行った。
	フジテレビ(福島テレビ その他) 叶えて! 魔術先生 2015年9月11日	クモの糸の基礎および実用化を目指した研究成果を報道するとともに、クモの糸にぶら下がって移動できることを実証したことを紹介。
大崎 茂芳 名誉教授	関西テレビ よーいドン(人間国宝) 2015年7月9日	タレントの月亭八光が来学し、クモの糸に関する独特な研究成果を紹介した。
	東映映画「アリのままでいたい」 2015年夏から秋	昆虫世界における生存競争の具体的な様子が映像化され、そのなかでクモの部分についてのアドバイスをし、字幕出演。

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

「未来への飛躍基金」に対し、多くの方々から募金のお申し込みを賜り、厚く御礼申し上げます。今号では、平成27年10月以降にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。今後ともご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成27年12月28日現在

【個人】

◆100万円以上1,000万円未満

井上健次郎 様	遠渡 豊寛 様	大西 英之 様
北村 弥 様	衣笠 哲雄 様	高 濟峯 様
齊藤 正幸 様	高比 康臣 様	土居 通明 様
徳井 幹也 様	橋本 浩 様	平尾 佳彦 様
堀内 尚子 様	矢野 寿一 様	山中富美男 様
和田 邦雄 様		

掲載を希望されないご寄附者様 4名

◆30万円以上100万円未満

青木 勝也 様	青木 誠 様	青木 保恵 様
赤羽 学 様	穴井 智 様	生駒 一憲 様
伊藤 和男 様	伊藤 新作 様	伊藤 高広 様
稲垣 有佐 様	井上 聡己 様	上嶋 昌和 様
上田 明美 様	上塚 弘 様	鶴山 広樹 様
榎本 泰久 様	大久保芳明 様	大西 誠一 様
大林 千穂 様	岡林 正純 様	小川 淳司 様
小川 宗宏 様	沖田 寿一 様	榎林 義雄 様
鎌田勝三郎 様	川合 省三 様	川口 昌彦 様
河村 健二 様	瓦口 至孝 様	北田 力 様
北野 浩行 様	吉川 公彦 様	木村 弘 様
桐田 忠昭 様	國松 幹和 様	熊井 司 様
熊田 幸江 様	黒川紳一郎 様	小畠 康宣 様
児山 紀子 様	齊藤喜久子 様	齊藤 弥穂 様
齊藤 守重 様	斎藤 能彦 様	坂口 泰弘 様
阪本 慧一 様	嶋 緑倫 様	島屋 正孝 様
志水 敏夫 様	下村 隆英 様	庄 雅之 様
杉江 美穂 様	杉村 克治 様	杉本 和也 様
杉山 信子 様	鈴木 秀夫 様	関 寿夫 様
曾根 勝 様	竹嶋 俊近 様	辰巳 英章 様
田中 成典 様	田中 邦昭 様	田中 利洋 様
田中 宣道 様	田畑 尚一 様	多林 伸起 様
玉井 進 様	塚口 勝彦 様	塚口真理子 様
鶴田 俊介 様	徳井 宏 様	内藤 宏昌 様
中井 靖 様	長雄 正博 様	仲川 喜之 様
中島 隆介 様	中島 祥介 様	中谷 晃 様
中谷 肇 様	中西 彰 様	長畑 敏弘 様
永吉 純一 様	仁木 陽一 様	西尾 健治 様
西川 学 様	西村 義明 様	橋本 俊雄 様
長谷川正俊 様	畠山 金太 様	馬場谷勝廣 様
林 需 様	東口 隆一 様	日高 輝之 様

廣田さち子 様	廣橋 里奈 様	福岡 篤彦 様
福原 昌夫 様	藤田 幸男 様	藤本 眞一 様
藤本 正男 様	船戸 正久 様	朴 永鉄 様
星加 泰宏 様	堀井 康弘 様	本田 伸行 様
前田 学 様	松井 一哲 様	松島 明彦 様
松本 寛史 様	丸山 直樹 様	三浦 太士 様
水本 茂 様	水本 保子 様	三橋 二良 様
美登路 昭 様	宮高 和彦 様	村上 華奈 様
村田 省吾 様	森村 昌史 様	家根 旦有 様
山内 基雄 様	山路 修身 様	山田 高嗣 様
山中 敏彰 様	山本 恵央 様	吉岡 章 様
吉川 高志 様	吉川 雅則 様	吉澤 弘行 様
吉治 仁志 様	吉村 均 様	吉村 佳子 様
米田 龍生 様	米山 恵嗣 様	李 民男 様

掲載を希望されないご寄附者様 18名

◆10万円以上30万円未満

浅川 勇雄 様	五十嵐稔子 様	伊藤 孝見 様
井上 毅 様	上野 聡 様	上平 悦子 様
植村 信子 様	梅垣 修三 様	梅垣 嘉子 様
大石 元 様	大川 晋一 様	岡本 希 様
奥地 一夫 様	奥山 節彦 様	籠島 忠 様
梶本 昂宏 様	形岡 博史 様	金森 敬司 様
川手 健次 様	菊池 英亮 様	北野 博子 様
北村 里奈 様	城戸 顕 様	木村 茂和 様
切石礼次郎 様	熊澤 博文 様	小泉 宗久 様
小林 恭代 様	斎藤 宏史 様	酒井 宏水 様
鮫島 謙一 様	軸丸 清子 様	柴田 健 様
新 靖史 様	須崎 康恵 様	住田 淳子 様
高岡 孝典 様	竹田 幸司 様	谷 満 様
玉置 伸二 様	塚田 周平 様	中江 正夫 様
中川 一郎 様	中島 弘司 様	仲谷 宗裕 様
二階堂雄次 様	丹羽 恒介 様	羽竹 勝彦 様
濱口 尚重 様	濱田 薫 様	早田 義宏 様
弘中 康雄 様	堀内 俊孝 様	松田 良介 様
松本 雅充 様	丸中 州 様	光山 孝慶 様
峯 克彰 様	八嵐 功 様	吉岡 順子 様
吉岡 隆行 様	吉田 昭三 様	米澤 泰司 様
脇坂 弘暢 様		

掲載を希望されないご寄附者様 33名

◆10万円未満

家重 純子 様	伊藤 妙子 様	今村 正敏 様
梅木 弥生 様	大槻 克一 様	岡田 定規 様
岡本 全弘 様	梶井 節子 様	鴨川 郷 様
北嶋 俊之 様	後藤 大輔 様	後藤 広人 様
阪田 聖基 様	佐藤 健司 様	柴田 芳宏 様
正島 良悟 様	高野 将人 様	竹内 真央 様
田中 賢治 様	田中千陽路 様	田中由紀子 様
津川 康子 様	辻本 正起 様	内藤希実子 様
中井 政友 様	中谷 賢司 様	中西 康裕 様
西 幸江 様	西浦 聡子 様	西村 幸 様
橋口 智子 様	橋本 明美 様	橋本 英雄 様
福井 康博 様	藤本 知里 様	堀 謙輔 様
Bolstad Francesco 様	松井 勝 様	豆田 清美 様
源 佐保子 様	宮戸 昇 様	本宮 善恢 様
保田健太郎 様	矢野富士夫 様	山本 百合 様
吉川 匡宣 様	吉本 信彦 様	米田 直樹 様

掲載を希望されないご寄附者様 51名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

青木久美子 様	赤澤 英樹 様	秋田 進久 様
浅野 正文 様	石川純一郎 様	石川 兵衛 様
石崎 嘉孝 様	石指 宏通 様	市橋 成夫 様
伊藤 利洋 様	井上 佑一 様	岩佐 佑美 様
岩崎 壽美 様	上田 順宏 様	江浦 信之 様
衛藤 幸男 様	大倉 宏之 様	太田 康彦 様
大庭 直樹 様	大山 博司 様	岡崎 愛子 様
岡嶋 克則 様	緒方奈保子 様	荻田 恭也 様
奥 和美 様	奥田 晴久 様	奥地 敏恵 様
奥村 秀弘 様	尾崎 由美 様	面川 庄平 様
金子 佳照 様	萱島 道德 様	賀屋 大介 様
川井 廉之 様	神野 正敏 様	北岡発矢郎 様
北中 登一 様	木下 國浩 様	木下 秀夫 様
久下 隆 様	國安 弘基 様	米田さおり 様
米田 宣英 様	佐伯 和夫 様	佐伯 圭吾 様
佐々岡紀之 様	山東 伸児 様	椎木 英夫 様
塩見 直幸 様	塩見 祐子 様	潮見 満雄 様
芝野 匡志 様	白江 伸宏 様	杉山 友悦 様
瀬戸 靖史 様	高井 隆子 様	高濱 潤子 様
高濱 誠 様	武内 吉彦 様	武田 侑子 様
多田 英之 様	谷口 繁樹 様	辻 尚志 様
辻 真弓 様	土田 容子 様	友田 恒一 様
中垣 公男 様	中野 博重 様	中林 仁美 様
中峯 邦雄 様	中村 武彦 様	西 真弓 様
西尾福英之 様	西峯 潔 様	野村 雅一 様

長谷川達也 様	畠 史子 様	畠中 利英 様
濱野 一將 様	廣瀬 友亮 様	福富 正明 様
堀田 聡 様	松尾 幸子 様	松尾 祥弘 様
松本 昌美 様	丸岡 真治 様	三笠 桂一 様
三上 貞昭 様	緑川 沢樹 様	森田 英之 様
森近 省吾 様	守屋 昭 様	柳生 貴裕 様
山尾 純一 様	山川 延宏 様	山田 嘉彦 様
山本 一彦 様	吉田 秀子 様	渡辺恵美子 様

【法人・企業】

◆100万円以上1,000万円未満

医療法人社団 きのしたペインクリニック 様
正木商事株式会社 様

掲載を希望されないご寄附者様 1法人

◆50万円以上100万円未満

奈良県立医科大学 医学部看護学科同窓会 様

◆10万円以上50万円未満

医療法人 桜翔会 中辻医院 様
医療法人 新生会 総合病院 高の原中央病院 様

◆10万円未満

掲載を希望されないご寄附者様 1法人

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

一般社団法人 奈良県臨床工学技士会 様
医療法人社団 松下会 白庭病院 様
金澤クリニック 様
北野クリニック 様

(五十音順)

編集後記

ひのえ申 初詣の海 友よ共に

明けましておめでとうございます、2016年は丙申です。冒頭の句は、新年にあたって詠んだ拙句です。サルは英知の象徴ともされています。世界はテロの問題や中国経済の減速などで一層混迷を深めているように思います。このようなときに奈良医大は多様な戦略で持って将来にわたって地域や人々に貢献していくことが求められます。われわれはいろいろな情報を、過去を振り返ることにより将来を展望し、自分の頭で考え、結論を出すことが大切です。その結論は必ずしも答えは一つでなく、また一つが絶対であることでないのは臨床と似ているように思います。共に頑張りましょう。今年もよろしくお祈りします。

(編集委員長)

- 岸本 年史 (精神医学)
- 藤本 雅文 (物理学)
- 京谷 陽司 (薬理学)
- 山名香奈美 (母性看護学)
- 西 幸江 (看護部)
- 藤谷 威行 (研究推進課)
- 鷲見 正人 (教育支援課)
- 廣田 雅彦 (病院管理課)
- 森田 英之 (総務課・広報室)
- 阪田 聖基 (総務課・広報室)
- (○印は編集委員長)

学報バックナンバーは web サイト上でもご覧いただけます。
(<http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)